



イスラーム過激派：「イスラーム国」が日本人2名の処刑を予告 #4

2015年2月1日、インターネット上で「イスラーム国」が誘拐し処刑予告をしていた後藤健二氏が殺害される模様を収めた動画が出回った。動画の中では、処刑役の男が「イスラーム国」に対する同盟に参加したとして日本政府を非難すると共に、今後さらに日本人を攻撃する旨の脅迫をした。なお、動画には、既に処刑されたとされる湯川遥菜氏についての情報や、後藤氏自身の発言場面は含まれていない。



評価

今般の動画には、「イスラーム国」の最有力の広報製作部門である「フルカーン」のロゴが付されている。また、動画は「イスラーム国」と親密な関係の掲示板サイトにいち早く掲載されており、流通経路の面でも信憑性は高いと判断できる。処刑役の男の口上では、今後日本人に対する更なる攻撃が予告されているが、現在の活動地域であるシリアやイラクの外部で調達するヒト・モノ・カネからなる資源が重要な「イスラーム国」にとって、シリア・イラクの外部で作戦行動を起こすことはそうした資源調達を妨げる危険な行為である。従って、「イスラーム国」が直ちに世界中で日本権益に対する攻撃を始めると考えるのは過大評価といえよう。

その一方で、イスラーム過激派にとって日本は10年以上前から敵方の陣営に属すると認知されており、今般の事件により当座日本権益に対する彼らの関心が高まることは避けられない。個々の安全の確保や警戒強化が重要であるが、それと並んでイスラーム過激派に思考・行動様式を理解し、有事の際に落ち着いて対応できるような情報収集・分析に粘り強く取り組まねばならない。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>